

コロナ危機を乗り越えて



コロナ禍でも、とにかくスタンディング宣伝（7月4日 南森町）

新型コロナウイルス感染症が、全国で再び広がりを見せています。新自由主義による経済効率と利益最優先の社会が、脆弱な医療・公衆衛生の現状を生み出しました。

私たちがなすべきこと。それは、命と暮らしを最優先した社会に転換する運動を拓けることです。国と自治体の本来の役割が今ほど求められている時はありません。

医療現場をはじめとした、公務・公共職場の安全・安心は、住民の安心につながります。暮らしを守るために、休業要請は補償と一体で。そして、PCR検査を徹底することが経済を回復させる近道です。

核兵器のない世界に

原水禁世界大会 平和行進



国民平和行進（7月6日 高槻）

2020年の国民平和行進は6月30日に大阪入りし、7月7日に兵庫県川西市に引き継ぎました。今年の4月23日～29日までNPT会議と原水禁世界大会がニューヨークで予定されていましたが、コロナの影響で中止となりました。しかし、平和の波は確実に全国と世界に広がっています。

世界大会大阪集会在8月6日に行われ、オンラインで広島とつながり、連帯を深めました。さらに、8月9日には一斉宣伝デーとして、なんば高島屋前、天王寺駅前などで宣伝行動が取り組まれ、各地域でも宣伝行動が行われました。

いのちをくらしが大切にされる社会へ

いのちを守る最前線

コロナ禍のまっただ中で奮闘しています

大阪自治労連 医療部会の仲間たち

新型コロナウイルス感染拡大では、公立公的病院で感染患者を受け入れています。多くの医療従事者は、「自らが感染しているのではないかと常に不安を抱えながら、命を削って働いています。その現場で奮闘している医療部会の仲間たちに話をききました。



「心身ともに疲弊」が増加
ストレスチェックで

各病院では、6月ごろから第一波の感染患者のピークに患者を受け入れるために提供してきた病床を、一定数は空床を確保して、一般病床へ戻す整備が行われてきました。しかし、今また感染患者が増え、受け入れがはじまっているところもあります。感染患者を多く受け入れた病院で、先日ストレスチェックを行ったら、「心身ともに疲弊している」と答えた人がこれまでよりも多く、今後の対応に気をつけていく必要があります。

安心して仕事ができる
マスクやガウンの確保を

感染患者と対応する大前提であるマスクなどの防護具は、以前より改善されていますが、N95という防護率の高いマスクは中国からの輸入で今も数が足りず、本人専用で何度も使用せざるをえません。防護用のガウンも足りず、ポリ袋や雨合羽で使える形につくったりして、しのいで

います。「安心して仕事ができる量を確保してほしい」との声が強く寄せられています。

疑似症者の対応も
手当の対象にすべき

今、現場で問題になっているのは、疑似症者の対応をしても、慰労金や手当が出ないことです。救急で運ばれてきて気管挿管などしなければいけない一刻を争うなかで、陽性患者かもしれないという危機感を抱えながら防護具をつけて対応するのに、結果として陰性ならば手当がないということが起きています。これは、現場の従事者間も対立がうまれ、ギスギスして雰囲気が悪くなる原因となっています。誰もが納得する制度に改善が必要です。

定期的なPCR検査を
「宿泊補助を」切実な要求が

陽性患者にかかわる業務では、どんなに気をつけていても「感染しているかもしれない」という不安を抱えていて、「家族に感染させるかもしれない」「自分が感染源になって

はいけない」と常に緊張してすごしており、家に帰らずホテル住まいをしている人もいます。「定期的にPCR検査を」や、「ホテル等への補助をしてほしい」など、切実な要求が出されています。

早急に医療機関への
損失補填や財政支援など
安心して働ける職場環境に

陽性患者対応をして、同僚からも「近づいたら感染する」と差別的なことを言われることもあり、「メンタル面でのケアや風評被害もなくしてほしい」との訴えもありました。風評被害で一般患者が減っていることや、陽性患者対応には人も時間もかかるうえに、院内感染を防ぐために検診や手術も減らしてきたこともあり、病院の経営赤字は深刻になっています。民間病院も同様で多くの医療機関がつぶれるのではないかと、どの悲痛な声が上がっています。第一線で住民の命を守るために奮闘している医療機関への損失補填など、早急な財政措置や安心して働ける職場環境づくりが急がれます。